

論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第 170 号	氏名	満田 勝
学位審査委員	主査 尾野村 治 副査 畑山 範 副査 藤田 佳平衛		
論文審査の結果の要旨			
<p>1 研究目的の評価 本研究は、擬似ペプチド系医薬品の開発に利用可能な非天然型アミノ酸合成を目指した速度論的光学分割法を開拓しようとしたものであり、目的は十分に妥当である。</p>			
<p>2 研究手法に関する評価 ラセミ体の 2-アミノアルコール類や α-ヒドロキシカルボン類を高エナンチオ選択的に光学分割できれば、どちらも生成物は容易に光学活性 α-アミノ類に誘導できる。本研究ではキラル銅ビスオキザゾリン錯体を触媒に用い、前者のベンゾイル化、後者のトシル化による光学分割を検討することとした。 これら手法を用いればキラル銅触媒とのオキサアザ二座配位の遷移状態で反応が進行し、高い基質特異性と効率の良い光学分割が達成されるとの独自の発想に基づくものであり、高く評価できる。</p>			
<p>3 解析・考察の評価 上述の研究手法によって、2-アミノアルコール類のベンゾイル化と α-ヒドロキシカルボン類のトシル化を共に高エナンチオ選択的に速度論的光学することが可能となり、これまで入手が難しかった非天然型アミノ酸を容易に合成できるようになった。これらの研究結果と考察内容は高く評価できる。 さらに、これらの結果に対して MOPAC2007 を用いた計算を実施し、論理的に妥当な考察を加えている。</p>			
以上のように本論文は医薬品合成化学研究に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士（薬学）の学位に値するものと判断した。			